


FKC ^{The}
Furano Kotobuki College

Times



富良野市教育委員会学びのまち推進課学びのまち推進係

電話 0167-39-2318 文責：上用 眞一郎

“人間は考える葦である”



10月6日(月)5時55分、日の出から22分後の十勝岳と大麓山です。巻雲が夜明けの光を受けて金色に染まっています。雲が織りなす風景にしばし見惚れていました。

自然って美しいです。この日は、私たちの43回目の結婚記念日、私たちへの贈り物だったと思っています。



10月、日も短くなり、紅葉も進みました。

麓郷ではすでに雪虫が飛んでいます…

庭のヘンリーとカナディアンカエデも色づいてきました。まもなく、枯葉の絨毯がこの庭を覆います。

さて、10月から、また食品の値上がりが続いています。3000品目を超える値上げは、今年4月以来、半年ぶりの高い水準だそうです。輸入依存の日本では、人手不足、光熱費の値上がりなどが原因とされています。相変わらずお米も高いです。

17世紀フランスの思想家パスカルの言葉です。



「人間は考える葦である」中学校の理科で習う「パスカルの原理」のあのパスカルです。人間は、葦のように細く弱い存在だが、葦のようにしなやかに、そして深く考えることができる。

『「考えること」こそが、人間らしさの根源だ』と言っています。

この物価高の時代に、私たちは「生き方を工夫しなさい」と言われているような気がします。世の中に振り回されない。お米が高ければおかわりは少し控える。二つ買うところを一つにしてみる。衣類だったら皆さんどうしますか？…そうして健康、毎日の生活、休日の過ごし方や生活習慣について、そして社会や未来について、よく考え、世の中を変えていくくらいの太っ腹で乗り切っていく。

私たちは考える葦なのですから…



芸術の秋・・・図書館祭り開催中！



「人間の幸福の二つの敵は、苦痛と退屈」、「人間は満足してしまうと退屈しか残らない」そのために大切なことは芸術とものづくりだとショーペンハウアーは言っています。

芸術は欲望や利害から解放された純粹の認識の場であり、退屈を超えて「美」や「真」に触れる瞬間をもたらすのです。「芸術は時間を超える」「創造は自己を超越する」…

今年初めて、図書館祭りに出展をしましたが、ことぶき大学の皆さんの芸術や創作は、コミュニケーションを生み育て、孤独や空虚を乗り越える場でもあるということです。

ことぶき大学で学ぶ意義はとても大きく、人間の幸福の原点ではないでしょうか。

ちょっと早いですが…「吾が思い出の記」

さて、久し振りに、第2研究生の伊藤さんから寄稿文が届きました。伊藤さんの自叙伝「青春篇」です。3回にわたり連載します。

皆さんもどうですか。「吾が思い出の記」に掲載するための自叙伝に挑戦してみませんか。



本科1年生にとっては、聞きなれない言葉ですが、ことぶき大学では、卒業式を節目に皆さんの歩みや今の想いを一冊の文集「吾が思い出の記」にまとめています。

文章はもちろん、俳句や短歌、写真、絵、クラブ学習の作品など、形は自由。自分らしい表現で文章にしてみてください。

テーマは、特に決めてはいませんが、「私の好きな風景」「今、心にある言葉」「これからやって見たいこと」「私の一日」「私の健康法」「人生の中で忘れられない瞬間」「ことぶき大学での思い出」「私の好きなもの」…なんでもあります。

書くのが苦手な人は、語ってくれた内容をこちらでまとめるお手伝いもできます。今興味あることやこれから挑戦してみたいこと、好きな映画や旅行の話なども良いと思います。

とは言え、毎年全員の提出は、なかなか実現してません。

そこで、今回はテーマを絞ってみました。

テーマ「あの頃のと きめき～恋・憧れ・心に残る出会い～」

若い頃の胸の高鳴り、映画のような出会い、心が動いたあの人、あの場面…秋の風に乗せて、そんな記憶を綴ってみませんか。

山部校のかつての文化祭の作品に「さあ！私はだれでしょう！」がありました。とても楽しかったです。勇気を出し、思いっきり若い時の写真を掲載するのも良いのではないのでしょうか。

来る11月12日(水)午後は、今年2回目となる「映画鑑賞会」です。妻と連日、上映作品を考えました。「あれはどう？これは？ちょっと軽いな？ミュージカルはどう？」この日曜日にととう2回も観て決めました。「我が道を往く」です。1944年制作、アメリカ映画、翌1945年の第17回アカデミー賞では7部門受賞した作品です。

アイルランドの子守唄、アベマリア、ゴーイングマイウェイ…ビング・クロスビーのクルーナー唱法の歌声とともに、静かで、限りなく優しく、愛と思いやり溢れる作品、「我が道を往く」を上映することにしました。



9/27	美しき蛍の光り野路の夕 懸命に動かぬ虫を運ぶ蟻	平澤 那子 西田マサ子
10/4	手を出せばぽとりと落ちしてんとう虫 一夜にしきれいに張れし蜘蛛の糸	堂向 和子 伊賀 啓子



広報ふらの	溜り水数多ぼうふら生まるを見 放屁虫洗濯物に匂い付け 忍び込み静かな居間に蚊の羽音	平沢美代子 菅田 泰子 千葉 弘子
-------	---	-------------------------

本日、8日(水)の日程

◎ 集合は、市立富良野図書館2F 多目的ホールです。

◎ 後期自治会費 (3,500 円) 納入日です。自治会会計まで納入してください。

9時30分 朝の集い

9時50分 クラブ学習の準備

10時00分 クラブ学習7

11/1~11/3 市民総合文化祭展示会場

“図書館まつり” 10/4(土)~10/12(日)

図書館2F 展示ホールにて開催中

書道クラブは、3F 交流室で行います。

※ 11/1~11/3 市民総合文化祭の作品展示

昨年：パネル 10 枚 (両面 20 面)

テーブル 2 脚

今年：パネル 10 枚 (両面 20 名)

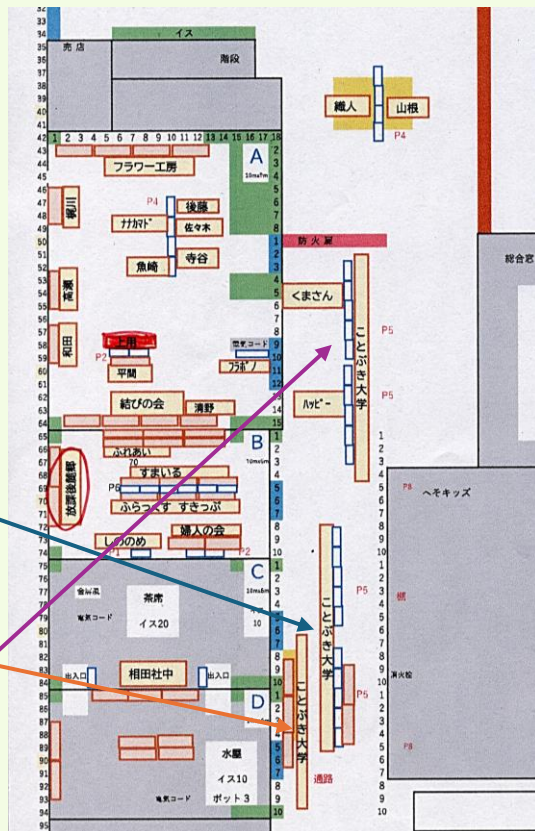
切り絵・絵手紙クラブ (各 5)

テーブル 2~3 脚

陶芸クラブ

+ パネル 5 枚 (片面 10 面)

書道クラブ



12時00分 昼食後、文化会館会議室 CD へ移動

13時00分 学年(課題)別研究 研究内容一覧表を配布します。

- ① テーマ
- ② 内容
- ③ 計画 (スケジュール)
- ④ 発表時間と発表形式 (発表者、使用するパソコンやプリント等の資料)
- ⑤ 今後の予定など

なお、事務局でも協力しますので、気軽に声をかけてください。

14時00分 学年別研究と同時進行でリズムダンスの自主練習をします。

学年別研究を優先します。

15時00分 帰りの集い 後片付け スコップ三味線の練習 (図書館) もあります。

自治会役員会を開催します。(時間は学年別研究終了後を予定しています。)

次回、10月15日(水)学習日程

“ 図書館祭り展示作品の撤去作業日です。”

絵手紙クラブ・書道クラブ・切り絵クラブの代表者は、図書館2Fの作品の撤去作業を行った後、文化会館に移動します。

作業は9時を目途と考えています。作品は事務局（3F）で預かります。

全日、文化会館会議室 AB になります。

なお、当番学年（第2研究2・3・4）ですが、早めに来られた方、会場づくりに協力してください。

9時30分：朝の集い：文化会館会議室 AB 集合

10時00分：楽しい中国語講座

12時00分：休憩 昼食

13時00分：「コーラス」 文化会館リハーサル室

「リズムダンス」文化会館 AB

◎三市町芸能発表交流会についての最終確認（服装・持ち物・台紙）

14時10分：学年（課題）別研究 文化会館会議室 AB

15時10分：後片付け 解散

当日 <10/16 (木) 三市町芸能発表交流会>

9時30分：市立富良野図書館会議室Ⅰに集合、朝の集い

10時00分：前日リハーサル 「コーラス」：会議室Ⅰ or 研修室

「リズムダンス」：2階多目的ホール

11時00分：昼食・休憩（会議室Ⅰ、交流室）

11時45分：バス乗車

12時15分：上富良野町保健福祉総合センターかみん 着

(071-0561 上富良野町大町2丁目8-4 0167-45-6987)

12時30分：三市町芸能発表交流会 開会式

12時45分：芸能発表

16時00分：三市町芸能発表交流会 閉会式 次年度開催地挨拶

16時15分：解散

寄稿文

連載自叙伝

「それからの私（富良野編）」

ことぶき大学第二研究生 伊藤 公雅



多少勾配の有る登り坂だったが息を切らし、目の前を通過して行く列車を見送った。お得意さんに品物を届ける途中であったが、なんとなく徳をしたような気がした。

その頃から蒸気機関車の乗務員に気を寄せていたのかも知れない。務めている会社の営業内容は、スズキのバイクを主体に自転車、そしてそれらの付属部品や用品（タイヤ等）の卸問屋業である。

バイク部品のパーツリストは横文字でしたので、そのお蔭で学校での英語の授業は比較的楽しく受けられた。

販売エリアは宗谷線、留萌線等の道北一体の自転車店と取引があり、毎日の様に各地方へ便利屋や国鉄の客車便等を利用して注文品を送った。

春先は猫の手も借りたい程の忙しさで、出発時間に間に合わせる為、昼食も二時、三時、交代で休憩を取りながら、息を切らさず対処した。

遠い所では利尻島杵形まで、郵送で商品を送った。勿論富良野市内を含め、山部、西達布、東山そして占冠にも取引先がありました。

（最近知り得た事です、私が富良野に来た頃、自転車店の前を通る度、挨拶を交わすお得意さんが有りました。その店主と寿大学に通う生徒の中に、兄妹で有る事を知り大変驚きました。）

三月、高校の卒業式では、四年間無欠席の皆勤賞を頂き、「仰げば尊し」の斉唱時は、男女を問わず堪え乍ら臉を濡らした。

斉唱時は、男女を問わず堪え乍ら臉を濡らした。これ迄、一緒に学んで来た生徒の中には母子家庭者が多く、親を亡くし親戚に引き取られた人、授業料を払えず学び舎を去った人等、看護婦正看を目指す人、自衛

私はこれまで自分の幼い頃の自伝的な事柄を書き留めた事が有りましたが、その後、成人してからの自分が歩んできた事を色々思い出しながら書き留めてみました。

思い出せば昭和47年8月、様々な思い出を残し、転勤のため特急「おぞら」に乗り込み東京へと向かった。

駅では数多くの職場の皆さんに見送られ、感激この上ない喜びでもありました。

動き始めた列車の中で、富良野でのこれまでの思い出等が、走馬灯の様に流れ、あんな事が有った。こんな事も有った。思いを馳せた。

高校時代、会社勤めの仕事（定時制高校で昼間は仕事）普段滅多に通る事の無い道路で、列車が迫る踏切警報機が鳴った。汽笛が鳴り、あっ！蒸気機関車だ。蒸気機関車の雄姿を見たくて踏んでいたペダルに力を込めた。

官昇級を目指す人など、様々な生徒が多数居りました。

我が家の家庭収入は少ない（商売の失敗も有る）が、私は両親に恵まれ何不自由なく（多少語弊が有ると思うが）暮らして来た事に感謝している。

今後の互いを気遣いながら、学友達と別れを惜しんだ。その足で中卒の私を育ててくれた会社に向かい、卒業報告とこれまでお世話に成った感謝とお礼を伝えに行った。

後日、私の為に料亭で、職場の皆さんと送別会を開いて下さった。

四月、就職が決まった富良野機関区に赴き、一通りの説明を受けた。

前年九月、国鉄乗務員採用試験を受験し、その後の面接試験やその際、適正試験（信号色の適格性、視覚広角確認、枠内数字の早期追跡確認等）が有った。

職名は整備掛、検査の為定期的に車庫に入ってくる蒸気機関車の整備である。油と埃にまみれた蒸気機関車の定期的検査と汗流し、とでも云うところでしょうか。職に就き色々な作業が有る中で、缶の火床内の片隅にまだ火種が残るボイラー内に入るのだが、狭い焚口戸からやっこの思いで中に入ると、缶内は裸電球一つ、薄暗く常夏の暑さである。

まるで洞穴の中に入ったようで、不気味な感じのする作業が順次回ってくる。この作業は俗に云う大小煙管（熱効率を上げる為、50本近く有る管）の内部に詰まった石炭灰混じりのすす払いで、固結していると圧縮空気を吹いた時に、吹き返し火床内は煤で充満、一言では言い表せない過酷な作業でもあった。

その作業を終え、小さな焚口から出てくると、汗と煤で汚れた顔は黒人を負かす程の状態で、防護の為覆った布の間から入った煤により、目がぎよろぎよろと一体誰なのか判らないなど、その様な過酷な作業も中には有った。紹介して頂いたアパートは、木造二階建ての六畳一間、狭い部屋でした。

中学生の頃、満州や樺太からの引揚者用の狭い寮に住んでいた。

古い木造の体育館の様な建物は、老朽化のため取壊しと成る為、代替えとして2、3 km離れたブロック造の平屋に転居した。台所付き四畳半と六畳では家族6人、相かわらず狭い住宅でした。その事を思うと贅沢は云えない。

炊事用のガス台、炊飯器等を買い揃え、共同流しの自炊生活が始まった。冬は寒く外気温がマイナス30度に下がった日は、部屋の温度が24度、布団の縁が息で凍り、顎が擦れて痛かった、布団に潜り込んだ経験も有りました。

車庫の機関車整備作業から機関車に石炭や水を補給する職場変更が有り（給水整備の仕事）、本線から運転を終えた機関車の缶替え（灰落と）と高架水槽からテナダ（水槽）に水を補給する作業である。

線間の灰坑に落とされた灰をシャベルで掻き揚げるのだが、熱い熾きが残る灰に散水し、水を含んだ灰はこれもまた重く、大変な重労働でもあった。（続く）